

新年ご挨拶



一般財団法人大原記念財団 理事長 平子 健

新年あけましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりありがとうございました。今年もよろしく願いいたします。今年は大原記念財団創設 125 周年となる記念すべき年になりました。長年のご支援に對しまして衷心より御礼申し上げます。

125 周年事業の大きな柱は新病院建設と新医療センターの構築です。大原記念財団は地域医療構想に基づき急性期病院と回復期病院を持つ財団として生まれ変わります。

私たちは平成 23 年から「財務内容を改善し新病院建設を計画する」目標に取り組んでまいりました。29 年からは「大原記念財団が持つ医療資源の活用を図り、地域と職員に評価される病院を作る」ことを目標として取り組んでまいります。

しかし、その基本は変わりなく登録医の先生方に信頼され患者さんに満足される病院づくりであります。医療の質向上、職員の育成、財務の健全化を目標に、今年も努力してまいりますので変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、先生方のご健勝をご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



一般財団法人大原記念財団 副理事長兼統括院長 大原総合病院 院長 佐藤 勝彦

新年おめでとうございます。登録医の皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は創業 125 周年、長い病院史のなかでも特別な年になります。丁度 1 年後の平成 30 年 1 月に急性期医療機能を集約した新病院が開院します。それと同時に回復期医療機能に衣替えした大原医療センターが再オープンします。通常の医療を行いながらそれらの準備を行いますが、患者様や登録医の皆様にご迷惑がかからぬよう用意周到にすすめて参ります。

初代院長は「福島に来て、この地を大きな原っぱにみたて、その中で一番になろう」として大原一と改名したとの逸話が残っています。時代が変わり、社会の高齢化が極に達しようとする現代、大家族制から核家族化がすすみ独り身世帯が増えて、家族単位のケアから地域単位のケアに切り替えなければ人間社会が維持できなくなりました。これからは病院と地域が一体となって住民の健康長寿を成し遂げるべく包括ケアシステムを構築しなければなりません。2018 年から始まる第 7 次地域医療計画では、高齢化や人口減に応じた医療需要の推計値から医療機能に応じた基準病床数が決まり、それによって医療機関は自らの意志で再編や転換を図っていくことが求められています。我々大原記念財団は自ら率先して一番に病院を再編します。まさに福島という大きな原っぱ（地域）の医療を時代にマッチした姿に作りかえることを意味します。

県北地区では、昨年暮れに医大病院の新病棟がグランドオープン、当財団の新病院が 1 年後に開院、さらにその 1 年後には福島赤十字病院も新病院棟が完成します。急性期医療を担う病院群が一新し充実します。人口が減少してくることを考えると患者確保という点では病院間の競争になると思います。一方、回復期や慢性期医療は現時点では人材も病床も不足しています。しかし、当方の医療センターが新規参入し、他の病院も急性期から回復期や慢性期へと転換すると、急性期以外の病院間でも競争がおこると思います。病院が患者様や地域から選ばれる時代、病院にとってますます厳しくなりますが、これまで以上の良質な医療を提供して患者様や地域の期待に応えたいと考えています。登録医の皆様には何卒当院をご支援頂きますよう、本年もよろしく願い申し上げます。



一般財団法人大原記念財団 大原総合病院 副院長兼画像診断センター長 地域連携相談室管理者 森谷 浩史

新年明けましておめでとうございます。

皆様には良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、当院の地域連携相談室は正面玄関を入ってすぐの場所に設置しております。ますます重要になる地域連携に対応するため、専任の職員を増員してその機能を充実させてきましたが、さすがに手狭になってきております。電話対応・院内調整・伝票処理など、業務が混み合うことが多くなってきており、先生方にご迷惑をお掛けしていることもあると思います。このことは、先生方からたくさんのご紹介をいただいている結果であり、地域連携相談室の責任の重さを身にしみて感じております。

今年は念願の新病院が完成します。併せて、電子カルテを導入し、検査データや画像を含めた一元管理ができるようになります。公的な医療ネットワークシステムとも連携できるように調整を進めております。

今後の大原病院・今後の地域医療のありかたを見据えて新病院のハードとソフトを決定しなければならない慌ただしい一年となりますが、地域の先生方からも連携機能を抜本的に見直せる好機でもあります。旧病院で構築してきた工夫・課題を新しい地域連携相談室のデザインに反映させたいと職員一同アイデアを練っておりますので、ぜひ先生方のご要望をお聞かせいただきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



一般財団法人大原記念財団 大原総合病院 総看護部長兼副院長 清野 伊奈美

新年明けましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私自身、昨年4月から総看護部長として就任し、看護部も新体制となり地域医療の皆様とともに歩ませていただきました。

看護部にベッドコントロールの権限をいただき、「入院を断らない」を合言葉に、紹介患者・救急患者の受け入れに努めさせていただきました。また、入退院支援室に認定看護師・退院支援専従看護師を配置し、入院前から退院支援・在宅まで多職種協働で、患者・家族に安心と安全が提供できる看護体制を目指してまいりました。

今年は4月に大原医療センターでの回復リハビリ病棟の立ち上げ、平成30年1月には新病院開院と大原グループの大きな変換の年となります。

「人を愛し、病を究める」この当院の理念のもと、地域医療に貢献できる看護部となれるよう、看護の質向上、接遇の教育等充実を図り、皆様と共に頑張っていきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

「第 44 回画像診断の会」を開催しました

平成 28 年 12 月 5 日（月）19 時よりホテルサンルートプラザ福島において、「第 44 回画像診断の会」を開催し、地域の開業医の先生方と大原総合病院スタッフ合わせて約 40 名が参加しました。

今回は、大原総合病院 画像診断センター 箱崎 元晴 先生によるミニレクチャー「肝腫瘍性病変の画像診断」に続き、大原総合病院 副院長兼画像診断センター長（画像診断の会代表）森谷 浩史 先生による「過去の胸部単純写真から学ぶ」と題して特別講演が実施されました。



また、さとう胃腸科内科 院長 佐藤 英典 先生より診断に苦慮する実際の X 線写真をご提示いただき、参加者で供覧しながら活発な意見が飛び交い、大変有意義な勉強会となりました。

当日ご参加いただきました先生方におかれましては、お忙しい中誠にありがとうございました。

大原記念財団は、2017 年も様々な勉強会を企画してまいりますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

ワーキンググループ 新病院移転 WG キックオフ

平成 28 年 12 月 19 日（月）午後 6 時より、大原総合病院 5 階レストランにおいて、新病院移転 WG キックオフミーティングが開催されました。

移転に関しては、シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング株式会社がコンサルに入り、診療体制・システム・患者移送・物品移転・健康管理センターの 5 つの WG で、今後本格的に移転に関しての計画・実施を行います。

キックオフミーティングでは、同社プロジェクトマネージャーの岡田氏より、「移転業務体制」「移転スケジュール」「各 WG の議題確認」などの説明のあと、他病院の移転映像が上映されました。

移転終了（患者移送）は平成 30 年 1 月 1 日、外来開始は 1 月 4 日の予定となっております。

安全に移転できるよう、職員一丸となって取り組んでまいります！



Information

平成 28 年 11 月 24 日(木)福島病診薬連携勉強会・吸入療法アカデミーふくしま合同研修会がサンライフ福島で開催されました。

演題 1 では当院薬剤科の木田奈緒也先生から入院中の吸入薬再開の症例報告を、演題 2 ではおやま調剤薬局の堀切茂正先生より「薬局での吸入指導の事例紹介」をテーマに、患者様への吸入指導のコツと流れについてご講演をいただきました。

特別講演では当院副院長の海瀬俊治先生より「吸入療法において薬剤師に期待すること」をテーマにご講演を頂きました。吸入薬の効果の高さと、デバイス誤操作による効果不良を実証例で示して頂き、参加者全員が熱心に耳を傾けました。

計 91 人の薬剤師が集まり、吸入指導のレベルアップに繋がりました。



平成 28 年 11 月 25 日(金)AM7:30 より新病院施工者の鹿島・佐藤・菅野JV様と大原記念財団職員の約 100 名合同での新病院建設地周辺および大町周辺歩道の落ち葉清掃を行いました。吹き溜まりとなった街路樹の落ち葉を大量に掃き集め、キレイな歩道となりました！

当財団は今後とも中心市街地の美化・活性化に努めてまいります。



平成 28 年 11 月 30 日(水)にサンパレス福島において、福島商工会議所会頭の渡邊博美様 をお迎えし、「元気で賑わいのある健都をめざして」と題した当財団管理者対象の平成 28 年度トップセミナーが行われました。渡邊会頭から体験談を交えたご講話をいただき、地域における当院が担う役割を再確認することができました。

当財団では新病院開院へ向け、今後も人材育成に力を入れて参ります。



平成 28 年 12 月 10 日(土)午後 1 時から、第 70 回「大原けんこう講座」が開催されました。今回は、「冬の感染予防～感染性胃腸炎、肺炎予防～」というテーマで、医師と言語聴覚士からお話がありました。

三島医師からは、冬に流行する感染症、特にノロウイルスの特徴と感染対策について手洗いの方法や食中毒の予防方法などについてお話がありました。

また、ノロウイルス感染症による死亡例は、脱水だけでなく誤嚥性肺炎が原因となることが多いとのことで、北目言語聴覚士から嚥下機能を高め肺炎を防止する“嚥下体操”について指導がありました。

今年度の「大原けんこう講座」は、この日最終回となり、4回とも御出席いただいた方3名に“皆勤賞”が授与されました。

多くの方にご出席いただき、ありがとうございました。

今後も、地域住民の皆様と共に感染対策に取り組んでいきたいと思っております。



平成 28 年 12 月 18 日(日)にエンゼル保育所において「クリスマス会」が開催されました。

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん達が見守る中、乳児クラスの「すみれ組」から年長クラスの「バラ組」が、歌や劇などで元気な姿を披露し、参加した保護者の方々から、頑張った子ども達へたくさん拍手が送られました。

会の最後には、サンタさんの突然の登場に大興奮の子ども達!!!

サンタさんからプレゼントが手渡しされ、大満足の様子でした。

今年も、みんなの思い出に残る、楽しい楽しいクリスマス会になりました。



大原記念財団の理念

人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一步先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 地域連携相談室

発行者 一般財団法人大原記念財団

理事長 平子 健

電話 024(526)0371 ダイヤルイン

FAX 024(526)0935

代表 024(526)0300 内線(1157)

住所 福島市大町 6 番 11 号

大原記念財団職員行動規範 10 カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。